

小学校との連携・交流	(2) 小学校との連携・交流
私立幼稚園	羔幼稚園
<実施時期>	通年
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」	
<活動のきっかけ>	
小学校に進学する子どもたちの不安を取り除きたいという幼稚園の願いと小学校の取り組みとが合致して10年以上にわたり交流を行っている。	
<活動のねらい>	
小学校が楽しい場所であり、近い将来小学校に進学し、新しい出会いに希望を持つこと。	
<経験する内容>	
小学生と遊ぶことを通して、小学校を体験する。小学生の授業の取り組みでもある学校探検を楽しむ。給食を一緒に食べることにより、給食等具体的に小学校生活の一部を経験することで安心を得る。小学生と親しくなることで将来出会う小学生ともよい関係を築けると安心し、期待する。	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
2020年度、2021年度は教員間だけの交流にとどめた	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ① 小学校講堂でグループ活動。 ② 小学校校庭遊具などでグループ活動。 ③ 幼稚園でいっしょに遊ぶ、交流。 ④ 小学校校舎内でグループ活動 ⑤ 小学校でグループ活動(リーフレットをもらう)、給食体験。 	

<活動でみられた子どもの姿>	<環境構成・教材や保育者の援助等>
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校という未知の場所への不安が薄くなり、小学生になることに希望を膨らませる姿が見られていく。 ・交流を繰り返すなかで、小学生たちが園児たちに必要な配慮を促すことにより、園児たちが小学生に安心して交わりを持つことができるようになる。 ・具体的には、生き物が好きな子に対しては、学校の生態園(パーゴラ園)を案内してくれるなどの配慮で、学校は楽しい場所であることを認識していく姿が見られる。学校の授業が教室で座っているという漠然としたイメージだけでとらえていた園児たちにとって、学校のいろいろな姿をイメージする機会となっている。 ・小学生との出会いにより、新しい興味関心を抱く。 ・幼稚園では保護者による弁当を昼食としているが、小学校で供給される給食を、体験することにより、安心感が生まれてくる。給食がみんなと同じものを食べること、美味しいこと、おかわりができることなど、ひとつひとつが新鮮で、また、安心材料であった。「いただきます」や「ごちそうさま」の秩序や、おかわりの仕方(ルール)などを経験し、幼稚園とは違った社会的秩序を経験していくことで、成長した自分の姿を思い描くこととなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園として特に教材は用意しない。 ・小学生が学校を案内する「リーフレット」を作っていた。 ・保育者の援助としては、小学生と園児とで小グループを作る際、交わりから離れないように、適宜、援助する(基本的には小学生のリーダーシップに委ねる)。 ・支援の必要な子どもには、時に応じて寄り添い、小学生が戸惑わないように配慮した。
<成果と今後の課題>	
<p>新型コロナウイルスに象徴される未知のウイルスによって子ども同士の交流ができなかったが、今後、そのようななかでもできる交流の在り方を模索していきたい。</p>	
<カリキュラムコーディネーターのコメント>	
<p>小学校に行って小学生と交流することは、子どもにとってドキドキする体験です。これまで小学校と交流を継続して取り組んできた蓄積は幼児はもちろん園にとっても大きな財産となっているはずです。今回交流できなかったことは残念ですが、教職員が意見交換する等コロナ禍の中でもできることに取り組まれた姿勢は、子どもたちに確実に伝わっていくと考えます。</p>	